今と昔の桜川

どうして今、桜川はきたないのでしょう。わたしたちは、不思議でしょうがありません。この前のことです。学校帰りにちょっと川をのぞきこみました。よく見るとフナが何びきもひっくりかえって死んでいました。わたしはどうして死んだのかさっぱりわかりません。

もっともっと不思議なことがあります。きょ年の冬ごろでした。朝、桜川のはしを通ったら、何かへんなにおいがしました。こやしのような、ゴミを燃やしたようなにおいです。このようなときがたびたびあります。それにとても川がよごれているのです。川の中には、こわれてつかいものにならないような船も沈んでいます。それから犬やねこの死んだようなものがうき上がっています。また、のみもののあきカン。果実のくさったもの。それにかさや、ビニールのふくろなどがたくさんうき上がっています。その中でもいちばんひどいことは、大きなブタがどこからか流されてきます。さいきん、立てふだが立っていますが、それにしたがって守る人は、ほとんどいません。どうしたら昔のような、すんだきれいな川になるのでしょうか。

桜川のどてには、何本もの桜の木が立っています。桜は花なのだから美しいのはあたりまえです。でも川はそれいじょうにきれいでなければならないのです。川にゴミをすてるひつようがないのです。川にゴミをすてるから、さかなが死んでしまうのです。川がきたなければ土浦の人々はいまに水がのめなくなってしまうかもしれません。

今と昔をくらべてみましょう。まだわたしたちが一、二年生のときのことです。まだそのころは、川がすんできれいなのでよくつりにいきました。一時間に何びきもつれました。それは、きっとさかなたちが水にこまらないで自由におよぎまわれていたのかもしれません。わたしがつっているすぐそばでは、キャンプをしにきた学生たちが、水中メガネもせずにドブンと川にはいって、およいでいました。わたしたちは、足だけをいれるぐらいであそびました。それが今では、きたなくて足を入れるにも入れられません。それに、そばによるとくさいのです。おばあちゃんからきいた話ですが、昔でもこまったことがあったそうです。昭和十三年に、みよし町やむしかけのていぼうがきれて大水になったそうです。そのことでは今はあまり心配にありません。それに四月になっ